

(エ) 供用時の空港利用車両の走行による生息状況の変化

カタフタ山を営巣中心とするカンムリワシつがいの採餌行動の場所は、繁殖期（４～６月）にはカタフタ山の高木林内とその近傍域に集約されており、非繁殖期の秋～冬にかけては採餌場所が広範囲に展開する傾向にあり、カタフタ山南側の県道新川白保線の電柱に待ち伏せる行動が増加し、道路へ下りて狩猟行動をとる機会が増えることになる。採餌の時間帯は早朝の６、７時台、９時台、午後３時台に多くなることがわかっている。

カンムリワシの行動時間帯である午前７時～午後７時の１２時間交通量は、平成９年度の既存の現地調査では１,８４７～１,９９７台、平成１１年の道路交通センサスでは２,１２３台となっている。

また、八重山野鳥の会の１９９８年の調査でカンムリワシが集中的に生息するとされている地域の近傍路線の１２時間交通量は、バナナ岳周辺が２,０１６台、崎枝周辺から川平にかけては１,８５０台となっており、石垣市教育委員会の調査では、図－６.１２.１.２(４１)に示すように平成８年度以降、崎枝で３件、川平で４件、バナナ岳で２件のカンムリワシの交通事故が発生している。また、平成１５年１１月には県道新川白保線において１件の交通事故が発生している。交通事故の発生時間帯は午前が１０件（７時台が３件）、午後が５件（１２時台２件、１４時台２件）となり、採餌行動が多くなる午前中に発生が多いことから、採餌のため道路に下りる際に車両と衝突するものと考えられる。

空港供用時における県道新川白保線の交通量は４,０００台／日、国道３９０号で３,２００台／日が見込まれており、これを平成９年調査の昼夜率から１２時間交通量に換算すると、県道新川白保線３,５２２台、国道３９０号２,７７８台となる。石垣市教育委員会の調査では２,０００台前後でも衝突が発生していることから、供用時においては、図－６.１２.１.２(４０)に示すように特に非繁殖期の主要な餌場となっている県道新川白保線においてカンムリワシの採餌行動に支障が生じ、行動圏の変化の程度は極めて小さいものとは判断できない。

供用時の道路交通騒音は、表－６.１２.１.２(３１)に示すとおり、県道新川白保線において、日中の最大で６６.６dB(A)と予測されているが、現況の６５dB(A)程度でも主要な餌場として利用されていることから供用時の空港利用車両の走行によるカンムリワシの採餌場の利用の変化は小さいものと考えられる。

表－６.１２.１.２(３１) 騒音レベルの変化の程度 (dB(A))

	現況	予測値 (平成33年)
沿道における騒音レベル	65	66.6

現況の騒音レベルは、平成13年度の既存の現地調査結果